

出版 歳時記

▼全校あげて、みんなでき、好きな本を、毎日ただ読むだけ。昭和六三年、一教師の提唱によって始まった朝の読書運動参加校は現在二万七〇〇〇校を数えるまでになった。その活動を顕彰する「朝の読書大賞」に岐阜県立東濃特別支援学校が選ばれた。特別支援学校の受賞は初めてという。この学校は小学部から高等部までさまざまな障害をかかえる二一〇人が六一学級で運営されている。そんな学校だけに、先生たちは「知的障害のある子供たちに一斉読書ができるのだろうか」と懐疑的だったという。「子供たちを図書室につれてゆくことも読書のひとつの形」「落ちて着かない児童が静かに本を読んでいる友達を見て学ぶ、これも読書」。このような子供達の状況にあわせた根気強い指導のもとで「本を読む時間」が根付いていったという。知的障害児に読書という取り組みは貴重な試み。その経験をぜひ全国に発信してほしいと

思う。

▼この歳になるとあれこれため込んでいたガラクタに溜息をつくことが多くなる。いつか役に立つかもにいつかはなない。いざ読もうと思っている本にいざ本棚から昔の本を引っ張り出して再読することが多くなった。読書に求めるものも、新しい知見を貪欲に獲得する快感よりも、一冊一行一行の愉しみとい

庚子は新生の年

うことになってきたようだ。そうならば手にとる本も何度かの断捨離に生き残ってきた本ということになるのだろうか。酒見賢一『陋巷に在り』（新潮社）一三巻を二〇年ぶりに読み返す。文庫ではなく四六判というのも目の衰えた身にはありがた。一ヶ月ほどかけて読了、さすがにもう三読はないだろう。「論語」を読み始めて顔回フアンという若い友人に進呈。

▼そういうえばテレビでも蔵出し

アーカイブものなどを見る機会が多くなった。NHKの「シルクロード」を見る。あの頃は秘境新疆ウイグル自治区にカメラが入ったというだけで鬼の首をとったようなものだった。シルクロードの民たちの「歓迎歓迎」が画面におどっていたが、あれから四〇年、いま習近平のイスラム教徒の思想改造、強制収容が国際的な批判の的になっている。あのあどけない笑顔を見せていた子供たちはいま成人して収容所の中なのだろうか。シルクロードの地は再びカメラを拒む新たな秘境になってしまった。

▼中国由来の九星気学からいうと令和二年は庚子七赤年だそうである。「庚」は「更」につうじて更新の「更」の意味があり、成果の収穫や古き姿からの脱却の気があるという。また「子」は新たな陽気が萌え始める意味があるところから、庚子の年は何事も改まり新生される年になるそうだ。このところ国の内外ともにイヤーンな感じ。切にそう願う。

(老書生)

出版クラブだより

No.598(20年1月1日発行) 18面

(一財)日本出版クラブ